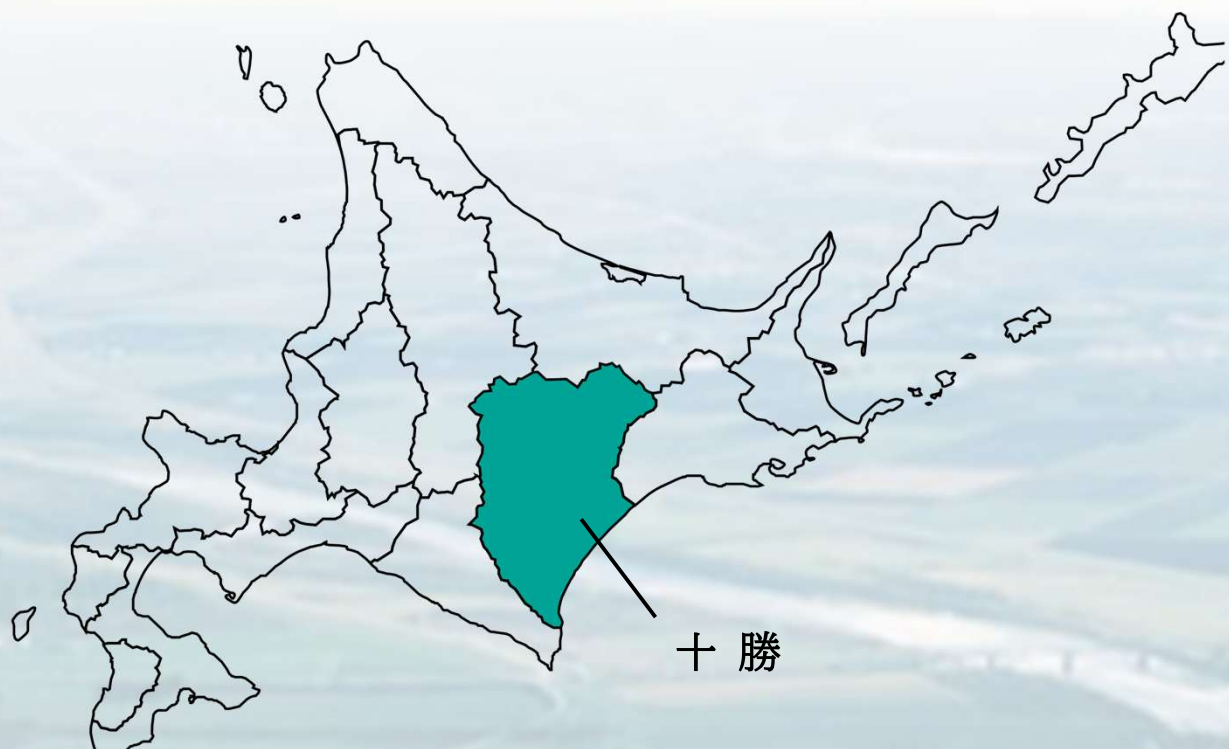




# 十勝の主な指標

分類	項目	単位	十勝	全道	全道比(%)	出典
面積	面積	km <sup>2</sup>	10,831.55	83,422.27	13.0	国土交通省国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(10月1日時点)」
人口	人口	人	317,447	4,997,061	6.4	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(令和7年1月1日現在) 北海道「住基ネットにおける人口【参考値】」(令和7年12月31日現在)
	世帯数	世帯	171,492	2,812,839	6.1	
	人口密度	人/km <sup>2</sup>	29.3	59.9	—	
生活	都市公園面積(供用)	ha	1,039.70	8,175.16	12.72	北海道の都市計画(R6年3月31日現在)
	上水道普及率	%	96.5	98.3	—	R5北海道の水道
	下水道普及率	%	86.3	91.9	—	R5 市町村公共施設状況調査
	病院数	箇所	32	534	6.0	R5 北海道保健統計年報
	医師数 (人口10万人当たり)	人	205.2	264.8	77.5	病院数：R5年10月1日現在 従事者数：R4年12月31日現在
教育	小学校数 (児童数)	校 (人)	79 (13,945)	913 (209,620)	8.7 (6.7)	文部科学省「令和7年度学校基本調査」
	中学校数 (生徒数)	校 (人)	46 (7,927)	548 (115,120)	8.4 (6.9)	
	高等学校数 (生徒数)	校 (人)	22 (7,442)	268 (105,564)	8.2 (7.0)	
産業	事業所数(公務を除く)	事業所	15,741	216,124	7.3	総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」
	就業者数※	人	159,851	2,347,270	6.8	総務省「令和2年国勢調査」 ※分類不能を含む
	うち第1次産業	人	22,932	156,298	14.7	
	うち第2次産業	人	26,455	387,947	6.8	
	うち第3次産業	人	104,628	1,738,586	6.0	
農業	総農家戸数	戸	4,948	37,594	13.2	農林水産省「2020年農林業センサス」
	十勝管内農協取扱高 (令和6年概算)	億円	3,770	—	—	十勝地区農業協同組合長会、十勝農業協同組合連合会、十勝総合振興局調
林業	森林面積	ha	688,479	5,535,239	12.44	R6年度 北海道林業統計
	森林蓄積量	千立米	128,810	881,725	14.61	
	木材・木製品製造業 製造品出荷額等 (家具を除く)	百万円	16,837	158,553	10.6	総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」
水産業	漁獲量	トン	63,423	1,069,516	5.9	令和6年 北海道水産現勢
	漁獲高	百万円	6,492	285,610	2.3	
工業	事業所数(製造業)	事業所	399	5,071	7.9	総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」
	従業者数(製造業)	人	12,767	161,988	7.9	
	製造品出荷額等(製造業)	千万円	49,738	552,075	9.0	
商業	事業所数 (卸売業・小売業)	事業所	3,204	43,085	7.4	総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」
	従業者数 (卸売業・小売業)	人	25,375	380,732	6.7	
	年間商品販売額 (卸売業・小売業)	百万円	1,050,518	17,131,282	6.1	
観光	観光客入込数	千人	11,595	153,208	7.6	R6年度 北海道観光入込客数調査報告書

# ようこそ 十勝へ



とかち

「十勝」という地名は、管内を流れる十勝川をさすアイヌ語「トカプチ」からといわれています。意味については、「乳房・ある処」「幽霊」「枯れる」などいくつかの説が存在しともとの意味ははっきりとわかりません。

十勝川が日高山脈を背景として悠々と流れる姿は十勝の象徴でもあり、延長156km、北海道第3位の長さを誇り、十勝川水系には平野を潤す大小200あまりの河川が流れ込む、まさに十勝の母なる川です。

北海道の開拓が、食料確保と北の守りという目的のもと官主導で進められる中で、十勝の開拓は、明治16(1883)年に静岡県から入植した晩成社をはじめとして、富山、岐阜など本州からの民間の開拓移民により進められました。

先人たちは、山深い自然や大雨で氾濫する十勝川と立ち向かい、不屈のチャレンジ精神で幾多の困難を乗り越え、少しずつ畑を開いていったのです。

以来、約140年、十勝は寒冷な気象条件にありながらも、恵まれた土地資源を活かし、近代技術の導入や土地基盤整備を進めながら、農業を主要産業として栄えてきました。

十勝管内は、1市16町2村で構成され、日本最大の食料基地としての役割が期待されています。

# 1 十勝のあゆみ

## 明治以前

- 1666（寛文6）年  
松前藩家老 蛸崎蔵人、ピロウ（現広尾町）の十勝神祠に観音像を安置し、運上屋、番屋を置く。
- 1791（寛政3）年  
ピロウ場所は、「トカチ場所」と改称する。

## 明治

- 1869（明治2）年  
蝦夷を北海道と改称、函館に開拓使を置き、十勝国を創設。  
（広尾、当縁、十勝、中川、河東、河西、上川の7郡51村）
- 1882（明治15）年  
晩成社が静岡県で組織され、依田勉三、鈴木銃太郎は下帯広村（オバリベリ）を開墾地に選定。  
開拓使を廃止、函館・札幌・根室の3県を設置。
- 1883（明治16）年  
晩成社移民団入植地に到着。
- 1886（明治19）年  
3県を廃止、北海道庁を置く。
- 1897（明治30）年  
河西ほか6郡役所を釧路国から分離して下帯広村に河西支庁を置く。

## 大正

- 1923（大正12）年  
戸長役場を全廃、町村制を施行。



開墾の様子（大正初期）



帯広駅の様子（昭和初期）

## 昭和

- 1932（昭和7）年  
河西支庁を十勝支庁と改称。
- 1947（昭和22）年  
地方自治法の施行により北海道庁を北海道と改称
- 1948（昭和23）年  
釧路国支庁より足寄、陸別の2村が十勝支庁に編入。
- 1957（昭和32）年  
川西村、大正村が帯広市に合併。1市13町6村となり、ほぼ現在の姿となる。



太平洋戦争での帯広空襲被害の様子（昭和20年）



十勝沖地震での被害の様子（昭和27年）



川西・大正・帯広合併パレードに沸く藤丸前（昭和32年）

## 平成

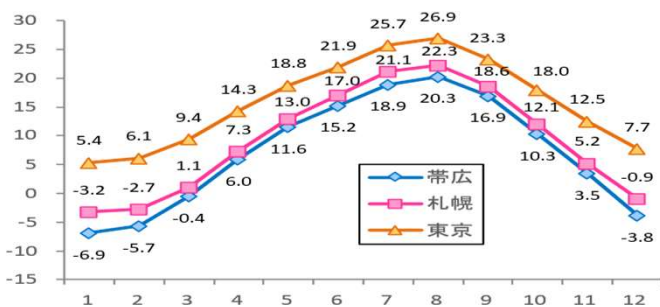
- 2006（平成18）年  
忠類村が幕別町に編入合併。十勝は1市16町2村となる。
- 2010（平成22）年  
十勝支庁を十勝総合振興局と改称。

# 2 十勝のすがた

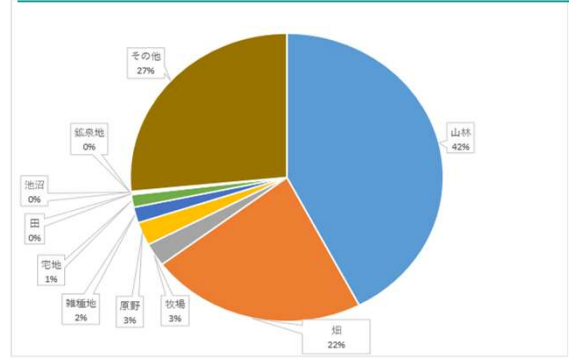
## ■ 気候

十勝地方は、太平洋岸を除き大陸性気候であることが特徴です。春には、フェーン性の乾燥した季節風が、日高山脈を越えて強風となることがあります。夏は、海岸部では海霧が立ちこめ日中の気温があまり上がりませんが、内陸部では比較的高温が続きます。冬は、寒冷高気圧（シベリア高気圧）により低温が続きますが、日高山脈で雪雲が遮られることから降雪量は少なく、晴天の日が続きます。年間を通じて、全国的にも有数の日照時間に恵まれ、年間降水量も少なくなっています。

### 気温（平年）

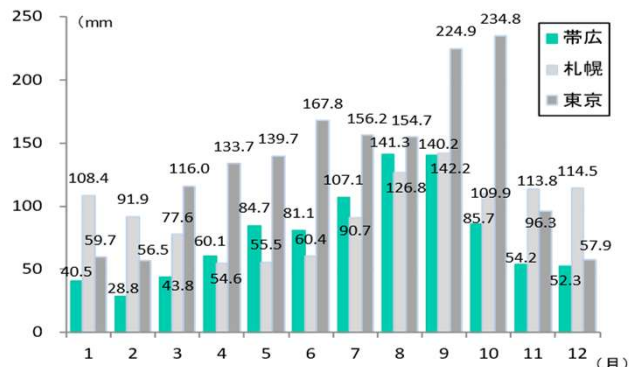


## 土地の利用構成比



資料：総合振興局地域政策課調

### 降水量（平年）



※気温・降水量とも1991～2020年の30年平均値 資料：気象庁HP

## ■ 人口

管内の総人口は、317,447人(住基ネットにおける人口【参考値】：令和7年12月31日現在)で全道人口(4,997,061人)の6.4%を占めています(外国人住民を含む)。

帯広市が159,323人と管内人口の50.2%、さらに周辺の音更町、芽室町、幕別町の3町を合わせた帯広圏では244,191人と管内人口の76.9%を占めています。

1km<sup>2</sup>あたりの人口密度は29.3人となっており、全道の59.9人と比べ低いものとなっています。

年齢人口では、平成27年には12.6%だった14歳以下が令和7年には10.6%と減少する一方、65歳以上は27.6%から32.8%と増加し、少子高齢化が進行しています。

## 市町村別人口・世帯数の状況

区分	人 口				世帯数	
	住基ネット 【参考値】	国勢調査				
		令和2年	平成27年	増減数		増減率 (%)
音更町	42,252	43,576	44,807	△ 1,231	△ 2.7	20,981
士幌町	5,611	5,848	6,132	△ 284	△ 4.6	2,737
上士幌町	4,681	4,778	4,765	13	0.3	2,587
鹿追町	4,832	5,266	5,542	△ 276	△ 5.0	2,460
新得町	5,476	5,817	6,288	△ 471	△ 7.5	3,294
清水町	8,631	9,094	9,599	△ 505	△ 5.3	4,657
芽室町	17,578	18,048	18,484	△ 436	△ 2.4	8,033
中札内村	3,822	3,884	3,966	△ 82	△ 2.1	1,917
更別村	3,052	3,080	3,185	△ 105	△ 3.3	1,362
大樹町	5,171	5,420	5,738	△ 318	△ 5.5	2,805
広尾町	5,738	6,387	7,030	△ 643	△ 9.1	3,123
幕別町	25,038	25,766	26,760	△ 994	△ 3.7	12,671
池田町	5,775	6,294	6,882	△ 588	△ 8.5	3,213
豊頃町	2,785	3,022	3,182	△ 160	△ 5.0	1,463
本別町	5,859	6,618	7,358	△ 740	△ 10.1	3,328
足寄町	5,775	6,563	6,990	△ 427	△ 6.1	3,198
陸別町	2,046	2,264	2,482	△ 218	△ 8.8	1,248
浦幌町	4,002	4,387	4,919	△ 532	△ 10.8	2,163
帯広市	159,323	166,536	169,327	△ 2,791	△ 1.6	90,252
十 勝	317,447	332,648	343,436	△ 10,788	△ 3.1	171,492
全 道	4,997,061	5,224,614	5,381,733	△ 157,119	△ 2.9	2,812,839

出典：総務省「国勢調査」  
「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（令和7年1月1日現在）  
北海道「住基ネットにおける人口【参考値】」（令和7年12月31日現在）